

一般社団法人

日本人間関係学会ニュース 第102号 発行日:2022.2.27

News No.102 Japan Association of Human Relations February 27 2022

発行: 日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: tanikawa@kusw.ac.jp 関西福祉大学 谷川和昭研究室
事務局: 〒799-2496 愛媛県松山市北条660 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 釜野研究室
E-mail: jahrijimukyoku@gmail.com URL: https://jahr.jp/

[内容] ☆大会長挨拶 ☆大会特集 ☆北から、南から ☆順子の映画鑑賞記⑥ ☆事業計画 ☆役員改選 ☆事務局だより

《大会長挨拶》

初のオンラインによる学会大会を振り返って

大会長 釜野 鉄平
(聖カタリナ大学教授)



令和4年2月12日に第29回日本人間関係学会全国大会が開催されました。

本学会では初のオンラインでの学会大会となり、試験的な試みでもあったため、大会本部、研究委員会、前大会大会長、理事会、抄録集査読担当、当日のシステム担当、司会進行等を担当してくださった会員の方々には様々なご助言やご指摘をいただき大いに助けられました。抄録集での研究発表希望者も当初は伸び悩みましたが、「釜野が学会大会をやろうとしているのなら」と声を掛け合ってくさるなど、コロナ禍において直接の交流はできなくなったものの、つながりを強く感じ感謝の念を抱いた大会でもありました。

どうにか大会を終えることができたものの、準備進行の遅れや参加者やシンポジストの先生方、理事会などとの意思疎通、周知の徹底、抄録集の在り方などの課題も多く残りました。

試行錯誤の末にこぎつけたオンライン開催ではありましたが、全国大会を開催したことで会員が同じ時間帯に顔を合わせることができた点については意義があったと感じており、ここで得た課題は次回大会の糧として引き継いでいきたいと思えます。

ここからは一参加者としてのオンライン学会大

会に関する感想ですが、大会中にも触れたように私は家庭の都合から自宅からの参加となりました。午後12時から運営やシンポジストの打ち合わせがあったのですが、午前中は下の子どもの習い事の送り迎えがあり、大会用ZOOMにログインできたのは12時直前でした。また、休憩中にパソコンから離れると上の子どもがゲームのクリア画面を見てくれと駆け寄ってくるなど、通常の学会参加時にはありえない、日常と年に一度の学会大会の時間が混同した形で経過していきました。

学会大会といえば日常から離れた土地へ赴き、緊張感をもって発表に臨むものという思いがありましたが、日常の延長で学会大会に参加できるのも、これはこれでよいとも感じました。大学教員になる前は研究費がなかったため、自費で交通費を捻出するなどしていたことを考えると、学生や一般の方でも自宅から参加できる形は日本人間関係学会の在り方に沿っているといえるからです。もちろん、対面とオンラインのハイブリッドにすると、申し込み方法やら分科会への参加者振分など煩雑になるため課題も増えますが。

何よりこれからの私の役割は、次の大会に経験を繋ぐことにあります。今回の経験を今後の学会活動に反映させることができるよう、引き続きご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

(2022.2.20)

大会特集 日本人間関係学会第 29 回全国大会

大会テーマ コロナ禍における人間関係を考える

巻頭言（p.1）の大会長挨拶にもあるように、今回の全国大会は初のオンライン開催となった。前大会では誌上発表のみの開催であったが、今大会はそれに加えて基調講演やシンポジウムを Zoom 開催とした。Zoom では共同ホスト体制が敷かれ、実行指揮を大会長の釜野鉄平先生がとられ、それを田中康雄会員と佐藤綾野会員がそれぞれ前半後半の司会進行の役割を受け持たれた。そして見事な司会ぶりであった。

大会当日スケジュール

時 間	内 容
12:30	Zoom 受付開始
13:00	開会 ① 大会スケジュールの説明 ② 大会長挨拶 ③ 理事長挨拶
13:15~14:15	基調講演（早坂三郎本学会理事長）
14:15~14:25	休憩
14:25~16:00	シンポジウム：「コロナ禍における人間関係を考える」 ① カウンセリング領域(鈴木満)/15 分 ② 社会福祉領域(森千佐子)/15 分 ③ 幼児教育領域(永野典詞)/15 分 ④ AI 領域(田中宏和)/15 分 ○コーディネーター(釜野鉄平 大会長)
16:00~16:10	休憩
16:10~17:00	総会 学会賞・最優秀賞発表（該当者がいる場合）
17:00~17:15	事務局等からの案内 閉会の挨拶(理事長・大会長)
17:15	終了

基調講演

「With そして Post コロナ社会における人間関係について」

基調講演は本学会理事長の早坂三郎先生が務められた。さまざまなトピックやエピソードを交えてご講話いただいた。

講演の内容は多岐にわたるが、最後に述べておられた要点・要約として次の 5 項目を人間関係の和を生み出す指針としたいものだ。

1. 目的・手段の設定による行動は、その達成度の違いをもたらす。
2. 人間関係とコミュニケーションには共感的理解が不可欠。
3. 自分の存在や行動・努力が、他者から「有り難う」に繋がるとの認識が得られる時、互いに嬉しいし満足や幸福感となり易い。
4. 違いについて考え、人のために想像し、創造することがアルゴリズムの展開にもつながる！
5. 色々な大きなうねりの襲来は必至で、現在及び少し先への視点と考察を以て、コミュニケーションと人間関係を構築・展開してください。



シンポジウム

コロナ禍における人間関係を考える

シンポジストに鈴木 満先生（コーチング研修会者ドリームフィールド）、森千佐子先生（日本社会事業大学）、永野典詞先生（九州ルーテル学院大学）、田中宏和先生（静岡大学）の4名が登壇され、コーディネーターは大会長の釜野鉄平先生が務められた。



このシンポジウムでは、カウンセリング・コーチング、社会福祉、幼児教育、AI という4つの領域から、新しい関係性を模索する現在及びこれからの人間関係について、さまざまな学びと気づきを得られるものとなった。

鈴木先生は、「**「わかり合えない」からはじめるコミュニケーション**」と題した、参加者を魅了する報告であった。森先生は、「**「コロナ禍における高齢者の生活変化と人間関係」**と題した、施設・在宅の比較考察であった。永野先生は、「**「コロナ禍における保育施設の人間関係の現状と課題」**と題した、自身の園長・顧問経験に即した内容であった。そして、田中（宏）先生は「**「職場において AI と人が共存していくマネジメントの在り方～AI によって失われる人間関係と AI によって活性化する人間関係」**と題した報告で、情報技術と人間の共存のあり方についての考察であった。



研究発表

オンライン開催に先行しておこなわれた誌上発表では、8つの演題が誌面を通じて公表された。今大会では前大会で休止していた最優秀発表賞の選考が、大会開催前までに研究委員会主催のもと行われた。

その結果、田中康雄会員の個人研究発表、竹下徹会員と牛島豊広会員の共同研究発表、以上2題の演題に対して最優秀発表賞とすることが決定し、オンライン通常総会の席上で表彰式が執り行われた。

発表演題一覧（大会研究発表抄録集より）

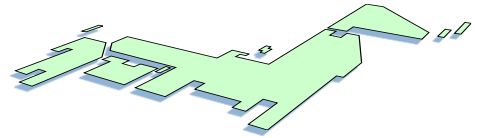
- ①言葉かけが乳幼児の発達に及ぼす影響に関する保育者の意識
戸田大樹（創価大学） 大村良恵（東京家政大学）
- ②リーダーシップにおける施設形態別の就労継続意識への影響および介護職員が上司に求める構成要因
田中 康雄（西南学院大学）
- ③ハンセン病にみる「無らい県運動」による排除と療養所における患者自治へ与えた影響
仲田 勝美（岡崎女子短期大学）
- ④児童相談所と市町村の連携促進の要因分析—児童相談所職員と市町村職員へのインタビュー調査から—
丸谷充子（和洋女子大学）
- ⑤生徒の学校参加と三者協議会
藤田 毅（太平洋学園高等学校）
- ⑥自閉スペクトラム症児の会話能力の促進—タイプ・トークン比による「他者に伝わりやすい説明」の検討—
渡邊孝継 1)・竹森亜美 2)・坂本真季 2)・和田恵 3)・木下愛 3)・荻野梨紗子 4)・大石幸二 2)
(1)星美学園短期大学 (2)立教大学 (3)立教大学大学院現代心理学研究科 (4)立教大学現代心理学部
- ⑦第三者が保育所を利用する保護者の相談アクセスに及ぼす影響
竹下徹（徳山大学） 牛島豊広（筑紫女学園大学）
- ⑧幼稚園における遊びと友達との関係性
原子 純（久留米大学）

論文講座

前大会に引き続いて、占部慎一先生（研究委員長）と加藤誠之先生（高知大学）が担当された。占部先生は「（序論）独創性と妥当性—J.グドールに学ぶ—」、加藤先生は「独創性と妥当性—ハイデッガーの真理論に基づいて—」と題する論稿を寄稿され、文字どおり独創性と妥当性に焦点化された。

北から、南から

出会いがあれば別れがあり、別れがあれば出会いもまた…



相手と共有できるツールや文化を用いて

趙 敏廷(岡山県立大学)

最近言葉に頼らないコミュニケーションを図ることの大切さについて実感することが多いです。私事で恐縮ですが、小学生の娘がいます。フィギュアスケートのクラブに所属していて周りの子どもたちと切磋琢磨しながら練習に励んでいます。保護者はクラブの運営をお手伝いする以外にも、子どもたちの送迎、リンクでの見守り、休憩時のおやつ準備など、みんなで支え合い・助け合いながら面倒をみています。そのためコミュニケーションを取るということが欠かせません。

実は保護者には、私以外にもインドネシアやイギリス、アメリカ、スイスから来られた人がいます。基本日本語で会話をしますが、言わば何となく通じる程度です。それでも不思議なことに意思疎通にはそれほど困ることはありません。例えば、SNSのやりとりについては、言葉のほか、スタンプや絵文字をよく使っています。これで互いの意向は十分に確認できるのです。また、母語を教え合って、互いに挨拶したりもします。たった一言なのに、うれしくなるものですね。さらに、(今はコロナ過で自粛していますが)保護者が自国の手作り料理をふるまいます。私がつくるキンパ(韓国の海苔巻き)も大評判です。美味しいものは美味しいと感ずき、美味しいものを食べると不思議と人はみんな笑顔になります。ふと思いましたのですが、韓国では知り合って間もない関係性でも「一緒に食事にかない？」と誘います。ともに、何かを共有することがコミュニケーションの本質だとすると、これはこれで理にかなっているような気がします。

人間は誰もが自分とは異なる存在です。だからこそ、つながりを求めているのだと思います。気持ちはあるけれど、どうしよう…と困った時には、コミュニケーションの原点に立ち戻って、自分と相手が共有しやすいツールを活用したり、相手の文化(生活)に寄り添ってみてはいかがでしょうか。きっと、人とつながるための糸口が見えてくると私は思います。



(大人気のキンパ)

「オンラインゼミ」の体験から

大住 誠(同朋大学)

皆 コロナ渦のためにオンライン授業が多くなったことは周知の事実だと思います。筆者もご多分に漏れずオンラインのゼミを担当することになりました。レジュメを担当学生が造り、それを予め参加予定の学生と教員に送ります。さらにゼミでは場合によってはパワポなどを使用して発表者が担当箇所を説明することもあります。筆者は最初、パソコンの操作に慣れず戸惑っていましたが、少しずつ慣れてくると、とても身心ともに楽になってきました。また、参加学生からも「普段の授業より楽です」という感想を多く聞かされるようになりました。ただし、残念な事に、オンラインの場では筆者は学生や自分自身の存在にすらリアリティを感じる事が出来ませんでした。

そこで筆者は「一体これはどういうことだ」と自問自答してみました。そこで筆者が気がついたことの1点目は筆者も参加学生も普段の授業のように「その場」の空気を読んだり、他者の存在に気をかける必要性が少なくなったこと2点目は教員、学生同士が直接的な関係性を持たなくても済ませることが出来る等でした。こうした気づきから、私達にとって普段の授業の「場」のあり方がどんなに大切であるかを確認することが出来ました。それは学生も教員も、その場の空気をお互いに読み合い、配慮しあう関係性よりも、「その場の空気」をお互いが共有できる関係性の大切さということです。それは、他者からの評価を気にしない状態で他者との間にリアルな関係が成立していることでもあります。オンラインゼミを否定的媒介にして、対面授業の望ましいあり方などを今後も考えていきたい思います。

傾聴することの難しさ

目黒達哉(同朋大学)

私たちは、人の話に耳を傾けているのでしょうか？

私は、コミュニケーションの入り口は、「傾聴」だと思います。「傾聴」は一般的な用語としても使われるし、カウンセリングにおいても使われています。

近年、高齢化社会に伴って、高齢者の話に耳を傾けようと傾聴ボランティアの活動が盛んに行われるになってきました。市町村の社会福祉協議会等が養成講座を実施し、傾聴ボランティアの養成をしています。実は、私は、その養成にかかわっています。受講者の中には、「傾聴ならできだろう」と思われて受講される方がいらっしゃいます。しかし、傾聴することは、簡単なようですが、実はそうではないと思うのです。

私たちは、人の話を聴いていて、聴き手である私が話をしたくなる、話し手の話を遮ってしまう、あるいは相手の話しを聴いている最中に自分の考えが浮かんだりしたことはありませんか？ このような状態に陥ると、もうすでに人の話を聴いていないのと同様ではないでしょうか。

私たちは、相手の話を完全には聴けないかもしれません。聴けないと思った方がよいと思います。その方が謙虚な気持ちになって人の話を聴こうとするのではないのでしょうか。

こんなことを感じながら日々を過ごし、傾聴に関する臨床心理学的な実践研究に取り組んでいます。

私にとっての“北から南から”【Part1】

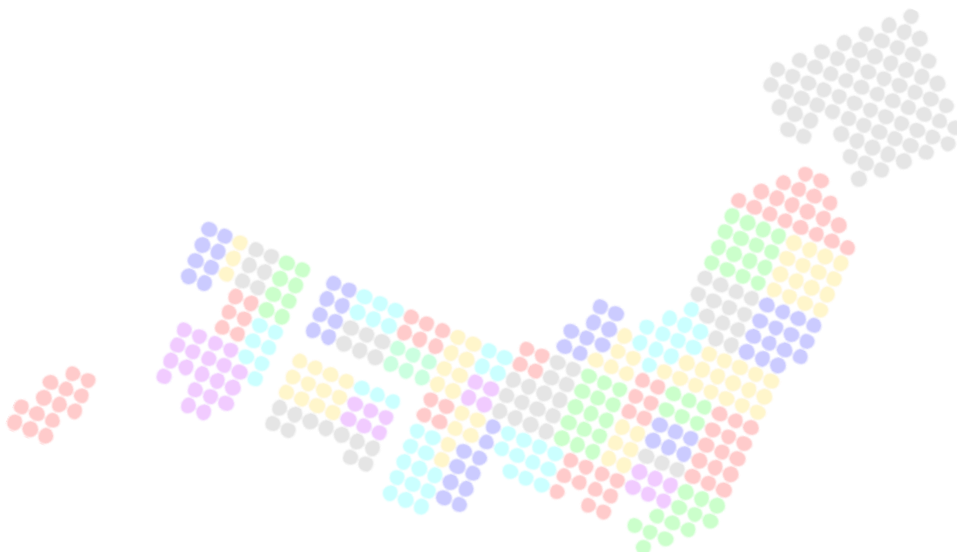
田中典子(スクールカウンセラー)

普段は、公立中学校3校に勤めるスクールカウンセラーをしている。本稿では、専門の心理や発達のお話し、現在大学院博士後期課程で研究している問題意識など、何をテーマにしようかと迷ったが、文字通り「私にとっての“北から南から”」にしようと思った。私のライフキャリアにとって大切なMovement historyだからである。

世の中には奇人な人がいるもので、学生時代のBoy friendが早々にお嫁さんにもらってくれる、となった。両親も、彼の気が変わらない内に?!、と大乗り気。有難い事この上ないが、ただ1つ、彼は転勤のある仕事に就いたため、全国を回る結婚生活が待っていた。始まった新婚の地は札幌。学生時代の札幌出身の友人に話すと「二度、泣くよ」「ん?」。聞けば、北海道への異動は遠くて最初は泣くが、住めばあまりの良さに離れたくない、と二度泣くことになるのだと言う。新婚から38年経つ今でも、この言葉の「言い得て感」には感心する。いまだに、暖かな年賀状や特産物を送って下さり、ご高齢になられた上司らも主人を「ちゃん」付けて呼んで可愛がって下さる。窓から見えた大通公園の時計台で、陣痛を図りながら長男を出産した北の大地、数か月とはいえ、彼にとっては紛れもない“出身地”の1つであろう。さてさて、東京を一度挟んで、お次は名古屋。札幌に負けず劣らずの古い官舎にため息をしていると先住者から「押し入れにキノコは生えている?」「ん?」。聞けば、湿気が酷い棟では、キノコの成長が楽しめるという。「マジでえ?!」。正しくは実家で出産したが、この地では二人目が誕生した。名物の味噌煮込みうどんに「固い! 生煮え?」と驚いたことも懐かしい。先輩がマンションを買って官舎を出たことに刺激され、初めての住まいを得た時は、ローンの押印に20代だった主人の手は震えていた。結局、この新居には8ヶ月しか住まず「転勤!」。

東京に戻り、3人目を授かった我が家は賑やかになった。こじんまりした15世帯の借り上げ宿舎の幼児らが、教育方針の検討から5ヵ所の幼稚園に分かれた時は「ん?」と唸った。所謂、私立のお受験も視野の地域だったが、公立がスタンダードの我が家はひたすら次の転勤に帯同する、そう次は大阪へ! マンションの15階は遠くに神戸、手前に伊丹駅舎、右に箕面の森、眼下には御堂筋線が見えた。まさか、ここで大震災に遭おうとは予想だにしなかったのである。

(to be continued)



Long-standing hobbies -長年の趣味から-

谷川和昭(関西福祉社大学)

卒業 ~When I grow up~

words and music : KAZUAKI TANIGAWA, 1991.3.26

サヨナラ言うのさ 懐かしい時代
言葉も違った あの頃は
いろんな地方の 方言耳にし
今ではすっかり“TOKYO WORDS”

今年卒業したら
僕も先輩達と同じだね
何故か寂しさ隠しながら
振り返る昔話

ふざけあったね どんな時にも
明るいムードで包まれてた
気まずいことが 何度かあっても
全てが今では ナイスメモリー

今年卒業したら やっと
大人になれるって気がする

何故か淋しさ隠す
僕はいつのまにかプリテンダー

同じ場所の同じ時間に
ボックス 皆が集まった
月日の流れは とても早くて
今 こうしてる時だって…

今年卒業したら
僕も先輩達と同じだね
何故か寂しさ隠しながら
振り返る昔話

今年卒業したら やっと
大人になれるって気がする
何故か淋しさ隠す
僕はいつのまにかプリテンダー

学会ニュースは年2回発行(2月・8月)

「北から、南から」の原稿は会員であれば、どなたでも投稿できます。

お寄せいただきたいのは、**400~1,000文字**程度です。多少オーバーしても大丈夫。

日々の生活で感じたことや、思い浮かんだこと、作品などお便りに載せてください。

1月末までの投稿分は2月発行のニュースに掲載

7月末までの投稿分は8月発行のニュースに掲載

送付先 広報委員会(谷川)まで tanikawa@kusw.ac.jp

順子の映画鑑賞記

第6回 グッチー族の悲劇を描く 「ハウス・オブ・グッチ」 橋本順子

『ハウス・オブ・グッチ』2021年/アメリカ制作。リドリー・スコット監督。レディ・ガガ、アダム・ドライバー主演。

本作品では、実在するイタリアの資産家のグッチ家の悲劇を描いている。創業者のグッチオ・グッチがフィレンツェで始めた靴屋は、世界的にも有名なブランド『GUCCI』へと発展をとげた。家族経営の企業の一つと言えるが、グッチオには6人の子供がいて、今後、起こりえる兄弟間の確執と後継者争いは、火を見るより明らかであったと思える。

映画では、創業者の孫のマウリツィオ演じるアダム・ドライバーとパトリッツア演じるレディ・ガガとの出会いから、二人の恋愛と結婚。娘の誕生など幸福な毎日が描かれ、ストーリーが展開していく。

人間関係の基本は家族であると思う。夫婦間を基本として考えると、お互いの両親、祖父母、お互いの兄弟、姉妹。そして、自身の子供。それだけでも数十人の人間が存在する。いつの時代でも、夫婦、親子の喧嘩の理由は似たり寄ったりであろう。(人間関係学的には、家族、親族間の関係性の悪化には、どのようなアプローチをしていくべきであろうか。)

2代目社長を辞任に追い込み、わが夫であるマウリツィオを3代目社長にと画策するパトリッツア。だが、夫とは経営方針などをめぐって喧嘩が絶えず、離婚の経過をたどる。そして、マウリツィオの新しいパートナーの存在をパトリッツアが知ることになるのである。1991年に離婚が成立。

1995年、マウリツィオがミラノの街で銃弾に倒れる。その事件の黒幕が元妻である、パトリッツア・レジャーニと判明したのが、1997年。事件後2年を要している。実際に起きた事件ではあるが、多くの映画がそうであるように、かなりの部分で創作が盛り込まれていることを前提とするにしても、幸福だった一家がなぜにと思ってしまうのである。殺人事件にまで発展していくのは、もちろん複雑な要素が絡み合っている結果であろうが…。

元夫マウリツィオ・グッチが再婚することが、直接の殺害への動機となったと言われるが、1993年9月にマウリツィオがグッチの持ち株50%を売却することを決定し、経営から一線を引くことを明言。

『グッチ夫人』と呼ばれてきたパトリッツアが、お金とともにグッチブランドに執着があったのであろう。結局は、グッチの一員になれなかった疎外感なのか、感情が変化していく様子を体現した、レディ・ガガの演技は圧巻であった。

パトリッツアは26年の刑を宣告されるも現在はミラノで静かに暮らしていると聞く。実の娘二人は母親との一切の関係を望まないと聞く。

「現在は、グッチの経営権は完全に創始者一族から離れている。」 エンドロールでこのようにスクリーンに表示され映画は終わる。

2021年の劇場公開作品の私のとっておき20を紹介いたします。
(リバイバル作品、ネット配信、ドキュメンタリー作品は含まず)

① ファーザー (イギリス・フランス合作)	⑪ アウトポスト(アメリカ)
② I.アウシュビッツレポート (スロバキア・チェコ・ドイツ合作)	⑫ ミナリ(アメリカ)
③ イン・ザ・ハイツ(アメリカ)	⑬ 茲山魚譜(韓国)
④ クーリエ(イギリス・アメリカ合作)	⑭ ジェントルマン(イギリス・アメリカ合作)
⑤ モーリタニアン(イギリス)	⑮ シカゴ裁判(アメリカ)
⑥ ノマドランド(アメリカ)	⑯ 消えない罪(イギリス・ドイツ・アメリカ合作)
⑦ 少年の君(中国・香港合作)	⑰ ホローコストの罪人(ノルウェー)
⑧ ソウルメイト(中国)	⑱ パワー・オブ・ザ・ドッグ(ニュージーランド・オーストラリア合作)
⑨ モロッコ、彼女たちの朝(モロッコ・フランス・ベルギー合作)	⑲ プロミシング・ヤング・ウーマン(アメリカ)
⑩ クルエラ(アメリカ)	⑳ 007ノータイムトゥダイ(アメリカ)

令和4(2022)年2月1日

令和3・4(2021・2022)年度
事業計画書

一般社団法人日本人間関係学会

現在も新型コロナウイルス、分けても変異株であるオミクロンの爆発的感染拡大状況にあり、収束の目途は立っておらず、学会運営としても安全・安心の確保を第一としなければならないと考える以上、令和3(2021)年度の事業報告にある内容の域を超えることはできないので、事業計画の内容は以下の通りとします。但し、令和6年までの理事改選は、令和4(2022)年2月12日総会にて改選の審議願う。また、これ迄の懸案であった事業年度・会計年度の期間(10月開始～9月締め)には弊害も、また疑問も寄せられてきたので、国家・行政及び一般的会計年度に合わせて4月開始～3月締めと変更する案を同総会に提案し、審議頂く。併せて収支の改善に取組み、繰越金額を現在の約150万から、取敢えずの目途として200万円としたい。

【第30回全国大会について】

現時点では、開催依頼を機関にお願いすることは憚られるので8月末迄待ち、感染収束状況にあれば対面開催を企画し、あるいは此れに至らざればオンラインにて特別講演とシンポジウム・研修講座などを開催し、総会を以て終了したい。

尚、テーマは「SDGsと人間関係」(仮題)とし、口頭発表は今年度と同じく研究発表抄録集にて代替実施したい。

【各種委員会】

○学会誌編集委員会(田中康雄委員長)

『人間関係学研究』の発行：令和4(2022)年12月下旬予定 ※昨年と変更なし。

○人間関係士資格委員会(三好明夫委員長)

①資格「人間関係士」については、山田正明氏の後見人の記載がないこと、その後同氏のご逝去により商標登録移転登記申請が特許庁から却下されたが、商標の新規商標登録申請を行う。

②資格制度の再検討

③研修委員会との連携

○人間関係士交流委員会(佐藤貴志委員長)

資格研修に対応して企画を行う。

○研修委員会(三好明夫委員長)

①人間関係士資格の商標登録後、人間関係士資格委員会との連携による資格研修講座について検討

②研修や講習会に対する会員のニーズ把握

③オンラインによる研修会の検討

④部会や地区会との連携による研修会の開催

○広報委員会(谷川和昭委員長)

①学会ニュース第102号は、令和4(2022)年2月発行予定

②学会ニュース第103号は、令和4(2022)年8月発行予定

○倫理委員会(山崎将文委員長)

会員が学会において研究活動をしやすい環境を整備するとともに、コンプライアンスの徹底を図る。
具体的には、ハラスメント防止規定及び研究倫理規定について検討する。

また、今後、電子ジャーナルに移行することを見据えて、研究不正が起こらないように啓発活動を行っていく。

○法人運営委員会(永野典詞委員長)

①会計年度の検討とその対応についての協力

これまで法人業務の引継ぎに努めてきたが、今後は会計年度の検討とその対応について協力する。

②その他:法人運営に関する情報収集及びこれからの法人運営におけるオンラインでの対応を検討する。

【地区会】

○関西地区会(早坂三郎地区会長)

令和3(2021)年6月度の研究会から開催しているが、新型コロナウイルス感染収束後は従前に復して開催する。但し当面、懇親会は中止。

○東北地区会(鈴木満地区会長)

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、現時点は東北地区会の再開の準備状態にある。

日本人間関係学会の活動を認知して頂きたく、今後も以下の3つに努める。

①日本人間関係学会東北地区会会員の継続者、退会者の明確化

① オンラインを使った東北地区会月例会の開催

② 理事ほか先生方によるオンライン講演会の開催

【部会】

○エイジング部会(三好明夫部会長)

①地区会との連携による研究会等の開催

②研修委員会との連携による研修会・講習会の開催

○語り旅部会(佐々木 かなこ部会長)

対面での大会開催の見通しが出てきた場合に、大会前日、開催地周辺の探訪を計画したい。

尚、新型コロナウイルス感染収束状況によっては新たな計画を立て、検討を頂きながら実施に向けた活動を行う。

【その他】

広報誌委員会、国際交流委員会、関東地区内など、休会等の状況にある委員会等はそのままであるが、対面での理事会及び総会開催ができるまで、継続審議扱いとしたい。

以上

新役員一覧

日本人間関係学会【改選】執行部及び理事・委員会・部会・地区会の役員候補(重任)一覧(案)

【理事長】：早坂三郎。

【副理事長】(3名以内)：三好明夫、森千佐子。

【常任理事】(理事長・副理事長を除く8名以内)：当分の間、理事全員による審議・運営とするため常任理事会を設けない。

【事務局長】森千佐子。

【事務局次長】釜野鉄平、谷川俊治(※理事兼務)。

・要綱第2条第1項【理事】(上記理事を除いて10名以内)：占部慎一、佐々木かなこ、佐藤貴志、鈴木 満、田中康雄、谷川和昭、永野典詞、山崎将文。

・要綱第2条第2項【理事】(若干名)：加藤誠之、田中典子、藤川君江。

・要綱第4条【理事】(5名以内)：伊賀吉郎。

【監事】：丸谷充子、山中康平。

【顧問】：上原貴夫。

(※50音順、敬称略)

【委員会】〔○は委員長、(副)は副委員長〕

学会誌編集委員会：○田中康雄、(副)加藤誠之、永野典詞、藤田毅。

人間関係士資格委員会：○三好明夫、(副)森千佐子。

人間関係士交流委員会：○佐藤貴志、(副)仲田勝美。

研究委員会：○占部慎一、(副)加藤誠之。

シニア学びと活性化プロジェクト：○占部慎一。

研修委員会：○三好明夫、(副)森千佐子。

広報誌委員会：＜当面、「休会・休刊」＞

広報委員会：○谷川和昭、(副)永野典詞。

支援活動委員会：○鈴木 満、(副)佐藤貴志。

国際交流委員会：＜当面、「休会・休刊」＞

交流拡大委員会：○鈴木 満、(副)佐藤貴志、田中典子、藤川君江。

倫理委員会：○山崎将文、(副)釜野鉄平。

法人運営委員会：○永野典詞、(副)山中康平。

【部会】

教育部会：○占部慎一。

エイジング部会：○三好明夫

語り旅部会：○佐々木かなこ、(副)伊賀吉郎、谷川俊治。

【地区会】

関西・東海地区会：○早坂三郎、(副)伊賀吉郎、佐々木かなこ。

関東地区会：○＜当面、「休会・休刊」＞

東北地区会：○鈴木満。

※役員の任期は3年。【上記役員の任期は令和6年の全国大会総会時迄】

但し、重任を妨げない。

以上

(本案については、2022年2月12日のZoom開催による総会で承認されました。)

事務局だより

【会員動向】（2021年8月27日～2022年2月20日）

2022年2月20日現在

会員142名（正会員：114名 一般会員：15名 準会員：13名 賛助会員：0）

〈入会者〉 正会員：2名 ※敬称略

・近藤 絢子 ・濱田 郁夫

準会員：3名 ※敬称略

・竹内 千香子 ・木下 愛 ・佐藤 亜美

〈会員種別の変更〉 4名

〈退会者〉 1名（正会員：1名）

1月下旬に「第29回全国大会研究発表抄録集」等と一緒に、2021年度会費の払込用紙を郵送致しました。お支払いをよろしくお願い致します。

「第29回全国大会」は、誌上での研究発表に加え、基調講演、シンポジウム、総会をオンラインで開催しました。画面越しではありますが、会員の皆様にお会いすることができました。

次回の「第30回全国大会」は、どのような形での開催になるわかりませんが、より多くの方々にお会いできることを楽しみにしております。

皆様、健康にはくれぐれもご留意ください。

事業年度・会計年度の 変更について

事業年度・会計年度を10月1日始まり～9月30日締めとしている現状から、4月1日始まり～3月31日締めの期間に変更する案について、2022年2月12日のZoom開催による総会で承認されました。後日、皆様には通知いたします。



（編集後記）

実は毎号毎号、発行日を何日にするかについては悩んできた。今号もそうである。必ずおこなってきた作業としては、何月何日が何の日であるか確かめるということであった。今回も、発行日に決めた2月27日が何の日か調べてみたところ、「2月14日のバレンタインデーと3月14日のホワイトデーの間の日で、恋人同士の絆を深める日。」とある。そして、「「きづ(2)な(7)」の語呂合せでもある。」との解説があった。「今日は何の日？」って、気にかけることは意外と面白いものですね。引用：<https://www.nnh.to/02/27.html>（谷川和昭）